

17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 05

学校名・団体名	野田村立野田小学校
HPアドレス	なし
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	野田小復興教育「ふるさと野田村に元気と笑顔を 広げよう」

〈活動・研究の意義、目的〉

東日本大震災津波により壊滅的な被害を受けた野田村の中心市街地に防災ビルが建設され、広大な防災都市公園（十府ヶ浦公園）の整備が進んでいる。村の復興のハード事業が間もなく完了し、復旧・復興が新たな段階を迎えることとなった。

こうした状況の中、今まで高学年を中心に野田村復興課と共に進めてきた復興の学びを全校に広げ、野田小復興教育の一環として、十府ヶ浦公園を学習の場として活用することにより、自分たちの住む野田村を見つめ直し、ふるさとを愛する気持ちを育てることを主なねらいとする。合わせて、自分たちの頑張りを村に発信することを通して、人や地域とのかかわりを大切し、自分たちのできる役割や責任を「元気と笑顔」という面から考えることができる子どもたちを育成したいと考えた。

<活動・研究報告>

1 十府ヶ浦公園オープン式典への参加 【6 学年児童 35 名参加】

- (1) 期日 6 月 11 日 (日)
- (2) 内容 十府ヶ浦公園オープン式典に参列し、震災後、村に「元気と笑顔」をと始められ、今年で 5 年目を迎えた「野田小ソーラン」を演舞、披露した。



(3) 成果

- 公園オープン式典は、村内外の関係者約 170 名の参列者及び野田村民の前で野田小ソーランを披露することができた。村の復興の新たなスタートとなる行事に参加することが、地域とともに歩む野田小として、子ども達にも、村民にも意識づけられ、6 年生の総合的な学習の時間の「野田村の魅力再発見」の学習につなげることができた。
- 自分たちの活動や元気を広く発信することで、また村民全体の期待を背負っている意識が醸成されつつある。

2 十府ヶ浦公園花壇グラウンドワーク (植栽・管理) 【全学年対象】

- (1) 期日 7 月 14 日 7 月 18 日 9 月 13 日 11 月 10 日 (全 4 回)
- (2) 内容 児童会活動の縦割り班 (スマイル班) により、公園花壇 (のんちゃん花壇) の植栽や草取り等の維持・管理を行った。



(3) 成果

- 新しい児童会旗 (スマイル班旗) のもと、平成 24 年度から 5・6 年生を中心に行ってきた公園花壇デザインワークショップ・グラウンドワークの取組を、本年度から全校児童で行うこととし、野田村復興むらづくり推進課の指導のもと、花苗の植付け、種まき、草取りなどの復興の学びを通じて、村のよさを改めて感じ取り、ふるさとを愛する気持ちが育ってきている。
- 十府ヶ浦公園を活用した学習は、それに関わる人とのつながりや地域との関わりがわかり、村の一員として、児童個々が復興にどうかかわっていけばいいか考えることができた。

3 十府ヶ浦の植物について知ろう 【4、5、6 年対象】

- (1) 期日 7 月 5 日 10 月 13 日 ※7 月～10 月 砂浜植物の苗の管理
- (2) 内容 岩手県立大学の協力により、十府ヶ浦海岸の植物再生に関わる講演会と種まきから植付までの作業を体験しながら、野田村の自然や環境の大切さを学んだ。



(3) 成果

- 復興教育の一環として、環境保全という観点から、身近な砂浜の植物の学習を通して、野田村の自然に関心を持ち、野田村のよさを見つめ直すことで、ふるさとを愛する気持ちが育つ学習となった。
- 自分たちの知らないところで、様々な取組を進めていることに気づき、多くの方々が今もなお復興に関わっているというつながりを感じ、考える学習となった。

4 十府ヶ浦公園オープン記念「野田小校内マラソン大会」【全学年対象】

(1) 期日 11月16日(木)

(2) 内容 学校発着で行っていた校内マラソン大会を、6月に完成した十府ヶ浦公園で行う。合わせて、公園内での実施を広く村民に周知し、自分たちの頑張りを発信した。



11/17 岩手日報

(3) 成果

- 十府ヶ浦公園を活用した学習は、今までの復興状況を学ぶ復興教育からステップアップし、人や地域とのかかわりを大切に、自分たちのできることや村の一員としてのあるべき姿を考えることができた。
- 当日の村民の応援や村当局、交通指導隊等、各関係機関の開催に対する協力は非常に大きかった。また、「被災した場所で元気に活動する子どもたちの姿を見て、復興を強く意識でき、元気をもらった。」などの感想が寄せられた。このことを子どもたちにフィードバックし、村の一員として、これからも野田小学校が頑張りを発信していくことにつなげている。